

漁況予報 いわし

第 1 1 9 号

2003年 9～10 月漁期
(2003年9月 4 日発行)

＝ 概況 ＝

【まいわし】

主要定置網における7月のマイワシ総漁獲量は11トンで、前年同期(1.6トン)の7倍程度の漁獲がありました。このうち、8割近くは鎌倉～藤沢地区における漁獲で、この地域に魚の来遊が集中したことがうかがえます。体長17cm台の中羽マイワシ1歳魚(2002年級群)が主体ですが、13～14cmの当歳魚も混じってきました。8月に入ると、引き続き、1歳魚主体の漁模様が続いていますが、当歳魚の混獲割合が増えてきました。

まき網は、7月は漁獲がありませんでしたが、8月に入り最初の4日間で佐島地区の小型まき網(1ヶ統)で30トン程度の漁獲がありました。

隣の駿河湾では7月に入り、突如マイワシが局所的に来遊し、3,000トンを超える漁獲を記録しました。また、鮒子～石巻にかけても1日で1,000トンを超える日が出てきます。いずれも中羽マイワシ主体の漁獲になっています。

【かたくちいわし】

主要定置網における7月のカタクチイワシ総水揚げ量は、650トンで昨年同期(180トン)を大きく上回る好漁となりました。11cm台の魚が主体ですが、相変わらず12cm以上の大型成魚の来遊も多く、三浦～湘南地区の定置網での漁獲が全体の9割を占めました。8月に入ると、さすがに7月までの勢いはなくなりましたが、依然好漁を維持しています。なお、下旬になり、今年春生まれの未成魚も混じるようになってきました。

佐島地区のまき網も、昨年同期並み若しくは若干下回る水準でしたが、餌イワシとして漁獲を継続しました。

【しらす】

6月に近年稀に見る不漁に陥った相模湾のシラス漁ですが、7月に入っても暫くは殆ど漁のない日が継続しました。そのような中、12日に全域でややまとまった漁となりました。翌日以降、東部では再び散発的な漁模様になったものの、奥部では100kg/統/日の漁獲が続きました。そして、24日前後から再び全域でまとまった漁模様になり、同200～500kgの漁獲水準が8月上旬まで継続しました。中旬以降は台風の影響や盆休み等で漁獲水準が落ちましたが、2ヶ月合わせた漁獲量は予測を超えるものでした。

通常、この時期のシラスは5～6月に湾内で生まれた個体が主体になるところですが、今年は沖合海域から加入してきた個体が多かったことが原因と思われます。5～6月に湾内で生まれた個体の生残率は前年同期同様、非常に低かったものと思われるが、まとまった漁が始まった何れのケースも、必ず2日程前に沖合海域から1ノットを超える暖水が断続的に湾内に流入していたことから、この流れに乗りシラスが加入したと考えられます。

＝ 予報 ＝

まいわし

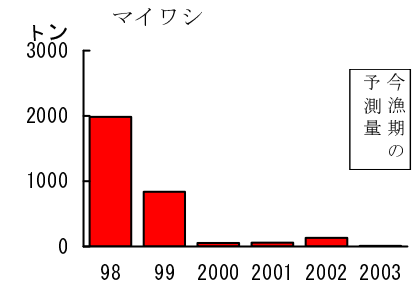
今漁期は、中羽イワシ(2002年級群)が漁獲の主体となり、これに当歳魚が混じるでしょう。

定置網主体に散発的に入網するものと思われます

今漁期の漁獲量は、約7トンと予測されます。

* 縦軸：主要定置網+まき網

過去5年の9・10月漁期の漁獲量
と今漁期の予測量

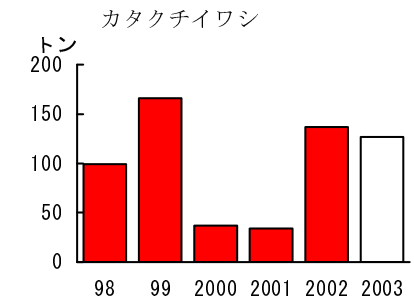


かたくちいわし

今漁期は、小型成魚及び春生まれの未成魚が漁獲の主体となります。

春生まれの未成魚は、春シラス漁で相模湾では不漁だったものの、全国的には豊漁だったことから、太平洋系群全体としては、資源豊度は高いと思われます。

今漁期の漁獲量は、約130トンと予測されます。



しらす

今漁期は7～8月生まれのカタクチシラスが漁獲の主体となります。

湾内で生まれた個体に期待はできませんが、前漁期同様、沖合海域からの加入に期待したいところです。

今漁期の漁獲量は、約65トンと予測されます。

